



2022年

リハビリサポート・ネットワーク 電話相談事業概要報告

認定特定非営利活動法人
リハビリサポート・ネットワーク
代表理事 西村直之

リハビリサポート・ネットワーク（RSN）は、電話相談事業を開始して満17年となった。

2022年の前半は法人所在地の沖縄県では新型コロナウイルス感染の流行がひどく、その後、流行は収まってきたものの、事業活動がいろいろな面で制約を受けた一年であった。認定特定非営利活動法人（認定NPO法人）ワンデポルトとの共催事業である本人・家族向けの対面相談事業は、オンラインでの個別相談として実施した。

他に、遊技産業のギャンブル等依存症啓発週間取り組みの企画・コンテンツ作成協力、パチンコ・パチスロの遊び方・安全度の自己診断アプリ「バーラージキル&ハイド」無料配布の継続、ホール従業員向け「のめり込み防止・啓発ポスター」配布、RSN発行のホール設置用リーフレット・パンフレットの改定とダウンロード版の無償提供、パチンコホールスタッフ向けeラーニング「パチンコ・パチスロ依存問題基礎講座」のコンテンツ拡充と無償提供、RSNニュースレター「さくら通信」による広報・啓発、公益財団法人日工組社会安全研究財団パチンコ・パチスロ遊技障害研究会における調査・研究協力、「依存の問題の支援に携わる人たちの勉強会（沖縄、東京）」協力などを行った。

電話相談事業の成果の概要

2022年1年間のRSN電話相談事業の成果についての概要報告を行う。以下、ここで報告する本人データは、パチンコ・パチスロプレイヤーのなかでも問題を自覚し、かつ電話相談するという行動を起こした人たちから聞き取った内容である。RSNの電話相談の利用者がパチンコ・パチスロプレイヤーを代表しているわけではなく、電話相談から得られる情報・データは学術調査用にデザインされたものでもない。そのため、RSN電話相談事業に関する情報・データはRSNの電話相談利用者に関するものに限定されており、パチンコ・パチスロの問題を抱える人たちの全体像を現しているわけではないことを強調しておく。

2022年の1年間にRSNで受けた電話相談は、2937件であった（RSN支援室対応、夜間対応含む）。1年間の総件数2937件は、前年2021年の3403件より466件少なく、年間相談件数は、夜間対応を開始した2017年以降では最も少なかった（図1）。1ヵ月あたりの平均件数は245件であった。2006年4月の開設からの累計件数は、4万6256件となった。前年に続き、COVID-19の流行、パチンコ・パチ

スロプレイヤーの減少、パチンコホール数の減少などが、相談件数の減少につながっていると推測している。

電話相談を通话時間によって10分ごとに分類すると、10分未満の短いものが1149件（39%）で最多であった。次いで10分～20分未満の624件（21%）、20分～30分未満の545件（19%）となっており、30分未満の電話が79%を占めた。電話相談を通话回数ごとに分類すると、RSNへの電話が初めての相談（初回相談）が1219件（42%）、2回以上の複数回の相談（複数回相談）が1273件（43%）、主にRSN支援室での対応となる間違い・無言・問い合わせの電話が445件（15%）であった。2021年と比べると、初回相談は318件減少（前年比79%）し、複数回相談は97件増加（前年比108%）した。

データの詳細解析は解析のバイアスを少なくするため、初回相談者のみを対象としており、これ以降のデータは初回相談1219件のみの解析結果となっている。

初回相談1219件の転帰は、「他機関紹介」459件（38%）、「電話相談終了」760件（62%）であった。他機関紹介の紹介先としては、最も多かったのは医療機関（主治医戻しを含む）199件（16%）で、次いでギャンブラーズ・アノニマス（GA）88件

相談者の詳細

（7%）、精神保健福祉センター69件（6%）、RSN対面相談会30件（2%）、という結果であった（複数回答を含む）。COVID-19の影響で、グループミーティングを休止した組織も多く、2022年もGAへの紹介はCOVID-19流行前のように行える状態ではなかった。すでに心療内科を含む精神科医療機関に通院中の相談者に対しては、原則として主治医に相談するよう伝えるという方針（便宜的に「主治医戻し」と表現）で電話相談に臨んでいる。特にCOVID-19流行下では、相談者の安全を考えると、新たな相談先を紹介するよりも、現在の主治医との相談で問題解決を進めて行くような働きかけが重要と考え、その考えに基づいて対応した。

電話相談へつながった相談者の対象者との関係性の内訳は、問題を感じた本人が1051件（86%）、家族・友人が168件（14%）、パチンコホールの関係者、医療機関や相談・支援機関などで援助・支援する援助者からは、0件であった。電話相談開始以来、本人からの相談が8割以上であり相談者の性別は、男性が961件（79%）、女性が258件（21%）であった。相談者の年齢の分布を年代ごと

に見ると、件数の多かった順に、20代364件(30%)、30代260件(21%)、40代227件(19%)、50代172件(14%)、60代88件(7%)、10代59件(5%)、70代40件(3%)、80代7件(1%)、90代以上2件(0%)であった。

相談者がRSNの電話相談に至った経路は、ホール内に貼付されたポスター1569件(47%)、インターネット335件(28%)の順に多かった。遊技産業の自主的な取り組みの推進により広報・啓発が効果を上げていることがうかがわれた。

RSNの電話相談を利用する以前に他の機関に相談した経験が「ある」と回答した相談の件数は159件(13%)、「ない」と回答した件数は841件(69%)、不明あるいは回答することを拒否した件数は219件(18%)であった。約7割の相談者が、ばちんこに関連して生じた問題についての初めての相談先としてRSNの電話相談を選んでいった。相談経験が「ある」と回答した相談のうち、RSN以前の相談先として最も多く挙げられていたのは医療機関であった。2022年1年間にRSNが受けた初回相談1219件のうち103件(複数回答を含む)が、精神科や心療内科などの医療機関での診療あるいは治療を経てからRSNに電話相談をしていた。

初回相談者のうち問題を感じた本人からの相談は1051件(86%)であり、問題のある本人に絞って解析を行うと、性別は、男性906件(86%)、女性145件(14%)であった(以下、初回相談者のうち問題を感じた本人のみを解析)。年代分布は、多い順に20代337件(32%)、30代235件(22%)、40代194件(19%)、50代134件(13%)、60代66件(6%)などであった。20代が最多で、30代、40代と、年代が上がるにつれて件数と構成比率は下がっていた。本人からの初回相談1051件のうち、RSNへの電話相談以前に別の機関・団体に相談した経験が「ある」と回答したのは119件(11%)、「ない」と回答したのは735件(70%)であった。本人からの初回相談1051件のうち、電話相談の結果(転帰)として最も多かったのは、他機関・他団体の紹介を行わずに相談を終える「紹介先なし」678件(65%)であった(複数回答を含む)。「紹介先なし」に次いで、医療機関(主治医戻し含

図1 年次別相談件数

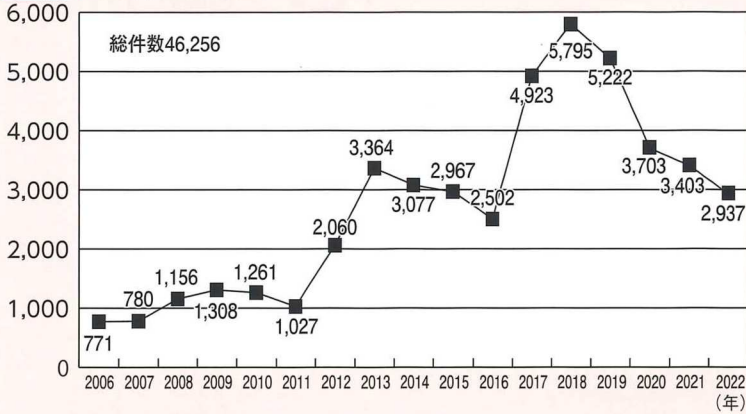


表1 総件数および月別相談件数

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
2006年	0	0	0	110	102	82	86	119	90	87	57	38	771
2007年	93	54	71	72	68	52	50	66	93	72	56	33	780
2008年	46	63	175	103	114	90	113	98	94	92	83	85	1156
2009年	95	108	112	128	128	128	124	112	120	103	79	71	1308
2010年	70	115	127	117	133	125	93	95	120	113	87	66	1261
2011年	68	79	89	88	93	98	60	83	94	84	96	95	1027
2012年	135	97	105	96	95	102	125	159	235	343	330	238	2060
2013年	273	282	284	316	352	285	290	233	265	299	287	198	3364
2014年	274	225	232	268	325	261	256	269	283	244	242	198	3077
2015年	209	230	299	304	262	281	252	239	221	249	247	174	2967
2016年	203	245	249	211	226	227	207	181	210	175	194	174	2502
2017年	171	348	473	439	450	445	391	473	371	377	519	466	4923
2018年	509	504	522	406	499	445	459	517	463	532	527	412	5795
2019年	462	503	515	423	487	453	469	363	434	370	360	383	5222
2020年	422	347	401	285	187	278	309	315	294	319	258	288	3703
2021年	288	330	379	295	277	294	256	296	252	260	237	239	3403
2022年	231	222	244	244	273	251	211	269	245	280	251	216	2937
計	3549	3752	4277	3905	4071	3897	3751	3887	3884	3999	3910	3374	46256



む)181件(17%)の紹介が多かった。本人・初回の相談者を就業形態で分類すると、正社員・契約社員などの「常勤」が399件(44%)で最も多かった(不明を除く)。次いで、派遣社員・アルバイト・パート・就労継続支援利用者などの「非常勤」が158件(18%)であった。常勤であれ、非常勤であれ、557件(62%)は職に就いている人であった。ぱちんこ以外の問題の有無(聞き取り数773件)については、325件(42%)でぱちんこ以外の問題が併存していた。

相談者(聞き取り数899件)がのめり込んでいる(あるいは、依存している)と感じているぱちんこの種別(パチンコ、パチスロ、その両方)は、パチンコ414件(46%)が最も多く、次いで両方330件(37%)、パチスロ155件(17%)であった。前年に続き、パチンコの割合が増加し、パチスロの割合が減少した。問題化した年齢については、男性では20歳が最も多く、18歳から30歳までに件数の多い年齢が集中していた。

ぱちんこで遊ぶ頻度(聞き取り数763件)については、「ぱちんこで遊ぶ頻度」で最も多かったのは「週4回以上」369件(48%)、次いで「週2〜3回」272件(36%)であった。「週1回以上、ぱちんこで遊ぶ相談者は712件(93%)であった。

1回のぱちんこで遊ぶ時間を1時間未満から8時間以上まで1時間ごとに区切って分類したところ(聞き取り数618件)、最も多かったのは「5〜6時間未満」105件(17%)、次いで「2〜3時間未満」103件(17%)、「3〜4時間未満」101件(16%)、「4〜5時間未満」101件(16%)、「8時間以上」99件(16%)であ

表2 相談者の性別

	2021年	2022年
男性	1133(74)	961(79)
女性	404(26)	258(21)
計	1537(100)	1219(100)

(初回のみ。表カッコ内はパーセント)

表3 相談者の年代

	2021年	2022年
10代	54(4)	59(5)
20代	392(25)	364(30)
30代	340(22)	260(21)
40代	337(22)	227(19)
50代	210(14)	172(14)
60代	129(8)	88(7)
70代	64(4)	40(3)
80代	9(1)	7(1)
90代以上	2(0)	2(0)
計	1537(100)	1219(100)

(初回のみ。表カッコ内はパーセント)

表4 ぱちんこで遊ぶ頻度

	2021年	2022年
年1回	1(0)	1(0)
半年に1回	1(0)	1(0)
2〜3ヵ月に1回	5(0)	4(1)
月1回	8(1)	10(1)
月2〜3回	25(3)	26(4)
週1回	71(7)	71(9)
週2〜3回	288(30)	272(36)
週4回以上	549(57)	369(48)
遊ばない	16(2)	9(1)
計	964(100)	763(100)

た。1回のぱちんこで遊ぶ時間は、相談者によってかなりばらつきが見られた。本人の初回相談1051件のうち、1ヵ月あたりの負け額(ぱちんこで遊んだ収支のマイナス額)のおおよその平均金額については(聞き取り数687件)、1ヵ月の金額が「5〜10万円未満」236件(34%)が最も多く、次いで「2〜5万円未満」が163件(24%)、「10〜20万円未満」が157件(23%)、「20万円以上」が69件(10%)であった。金額が10万円以上の相談は226件(33%)あった一方で、「マイナスなし」とした相談が14件(2%)、「1万円未満」が14件(2%)など、比較的少額の金額で問題を感じて相談につながる人もいた。ぱちんこ以外のギャンブリングの経験については「なし(経験がない)」と回答したのは655件(78%)、「あり(経験がある)」は180件(22%)であった。ぱちんこ以外のギャンブリングのうち、経験者が最も多かったのは競馬77件であった。

相談時点における借金の有無(聞き取り数875件)については、借金が

* * *

ある人からの相談は428件(49%)で、ない人からの相談は447件(51%)であった。債務整理経験の有無(聞き取り数813件)については、債務整理経験がある人からの相談は140件(17%)、債務整理経験がない人からの相談は673件(83%)であった。

問題ギャンブリングに対する評価法である「SOGS簡易評価版」で評価できた有効回答を得た相談90件の平均点数は3・80点であった。本人の初回相談1304件のうち、「PPDS短縮版」の6項目に対して有効な回答を得ることのできた相談は184件(18%)であった。合計得点の分布の平均は16・91点、カットオフ値である14点以上の人数は147人(80%)であった。

表5 1回のぱちんこで遊ぶ時間

	2021年	2022年
1時間未満	6(1)	6(1)
1〜2時間未満	45(5)	36(6)
2〜3時間未満	138(16)	103(17)
3〜4時間未満	123(14)	101(16)
4〜5時間未満	125(15)	101(16)
5〜6時間未満	141(16)	105(17)
6〜7時間未満	73(9)	40(7)
7〜8時間未満	56(7)	18(3)
8時間以上	131(15)	99(16)
遊ばない	16(2)	9(1)
計	854(100)	618(100)

表6 1ヵ月のあたりのぱちんこの負け額

	2021年	2022年
1万円未満	10(1)	14(2)
1〜2万円未満	31(3)	25(4)
2〜5万円未満	218(23)	163(24)
5〜10万円未満	296(31)	236(34)
10〜20万円未満	221(24)	157(23)
20万円以上	124(13)	69(10)
マイナスなし	30(3)	14(2)
遊ばない	16(2)	9(1)
計	946(100)	687(100)

(初回・本人のみ、不明を除く。表カッコ内はパーセント)